

sshfs Mount 説明書



0,sshfs Mountについて

sshfs MountはmacOS用のソフトウェアです。

「1つの事をちゃんとやる」を目標にsshfsのラッパーとして、
「コマンドラインの生成」だけに特化した機能を持っています。

- 1, macFUSEとsshfsを利用してリモートサーバにあるディレクトリをローカルにマウントするためのコマンド行を生成します。
- 2, 基本機能
 - ・生成したコマンド行をクリップボードにコピー出来ます。
 - ・コマンド行の編集を行う事が出来ます。
- 3, 付帯機能
 - ・コマンド行をShell Scriptとして保存し、実行権限を付与します。
 - ・コマンド行を直接Shellへ投げて、ボリュームをマウントする事が出来ます。

sshfs Mountはコマンドを生成するだけなので、実際のマウントはmacFUSEとsshfsが必要です。

sshfsMountは単独でも利用出来ませんが、事前にmacFUSEとsshfsのインストールを推奨します。

どちらも以下のサイトからダウンロードする事が出来ます。

<https://macfuse.github.io/>

重要：

○公証とアプリ署名について

作者はApple Developer Programに登録していないため、開発者署名を取得していません。
また、Apple社の公証を取得しておらず、かつ、アプリケーションに署名もしていません。
最近のmacOSは公証と署名が付与されていないアプリは起動する事が出来ません。

起動する為には以下のサイトからSentinelと言うアプリを取得して利用します。

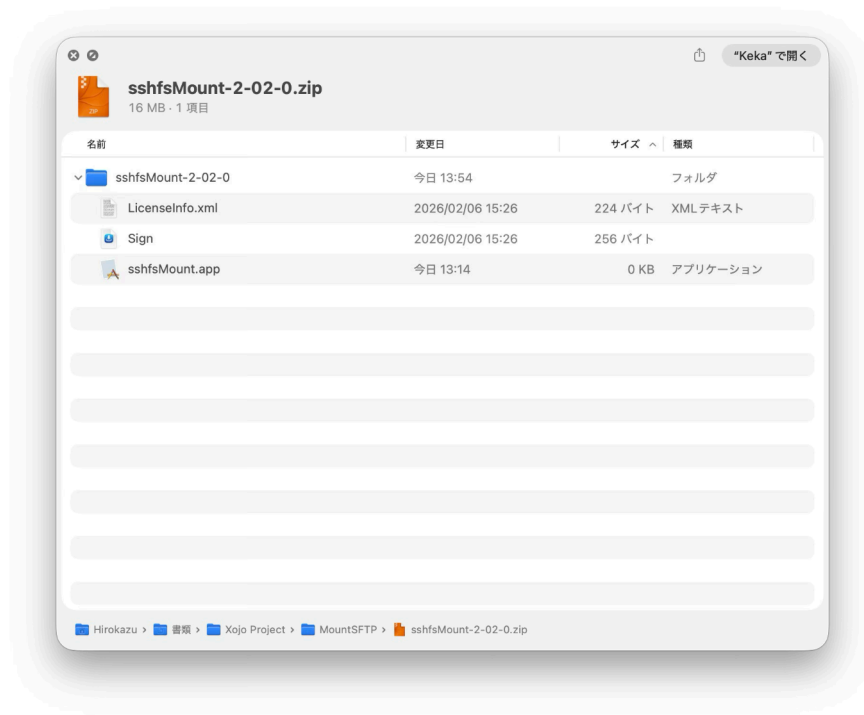
<https://itsalin.com/>

使用に際して：

sshfsのオプションは作者が良く使うものだけ厳選して、GUIに盛り込んであります。
その他の詳細なオプションをお使いの場合はコマンドラインを編集してお使い下さい。
作者はiTerm2とPathFinderにて動作を確認しております。
付帯機能は有効期限有りでライセンス情報ファイルを配布しております。（試用期間とします）

1, インストール

ダウンロードしたZIPファイルを解凍すると、3個のファイルがあります。



- ① sshfs Mount本体
- ② LicenseInfo.xml
- ③ Sign

①の本体は実行可能なアプリケーションです。
本体は単体で利用可能で、コマンド行の生成に使用する事ができます。
アプリケーションフォルダなど、任意の場所にコピーしてお使い下さい。

②LicenseInfo.xmlはテキスト形式のライセンス情報ファイルです。

③SignはLicenseInfo.xmlファイルの署名データです。

この2つのファイルは試用のため利用期限を設定しています。
試用期間終了日まで制限なく利用する事ができます。

2、ライセンスの登録

ライセンスの登録を行わなくとも、基本機能のコマンド行の生成を行う事ができます。
下記の機能を利用するにはライセンス登録が必要です。

One-Clickでのマウント機能
Shell Scriptとして保存する機能

手順

- 1、sshfsMount本体をアプリケーションフォルダなどへコピーします。
- 2、コピーしたsshfsMount.appをダブルクリックして起動します。
sshfsMountは起動時にライセンスをチェックします。ここではライセンス情報がインストールされていないのでライセンス確認は出来ておりません。
- 3、sshfsMountメニューから「sshfs Mount(Ver.2.02.0)について」を選びます。
以下のようなAbout Windowが表示されます。



「無効」と表示されている

- 4、ライセンス登録
SignファイルとLicenseInfo.xmlファイルをこのウィンドウにドラッグ&ドロップして下さい
表示は何も変化しません。
閉じるをクリックしてウィンドウを閉じます。
sshfs Mountoを終了して下さい。

- 5、ライセンスの確認
前の4の作業でライセンスがインストールされている事を確認します。
sshfsMountをダブルクリックで起動します。
「sshfs Mount(Ver.2.02.0)について」を選びます。



このウィンドウを表示したままに
して下さい。
書きの手順4で使用します。

ライセンス情報が”有効”になっていればライセンス登録は完了しています。

ライセンス情報が「無 効」になっている場合は

ドラッグ&ドロップしたLicenseInfo.xmlとSignファイルが
以下のフォルダに存在する事を確認して下さい。

ユーザのホームディレクトリ内の

Library/Application Support/org.nanno-net.sshfsMount

2つのファイルが存在しない場合 → もう一度インストール作業を行って下さい。

2つのファイルが存在する場合は以下の原因が考えられます

- ・ LicenseInfo.xmlの
 - ・ ライセンス情報の有効期限切れ
 - ・ ライセンス情報の許諾アプリケーションでは無い
 - ・ ライセンス情報の許諾バージョンが古い

この場合、新しいライセンスが必要になります。

【注意】

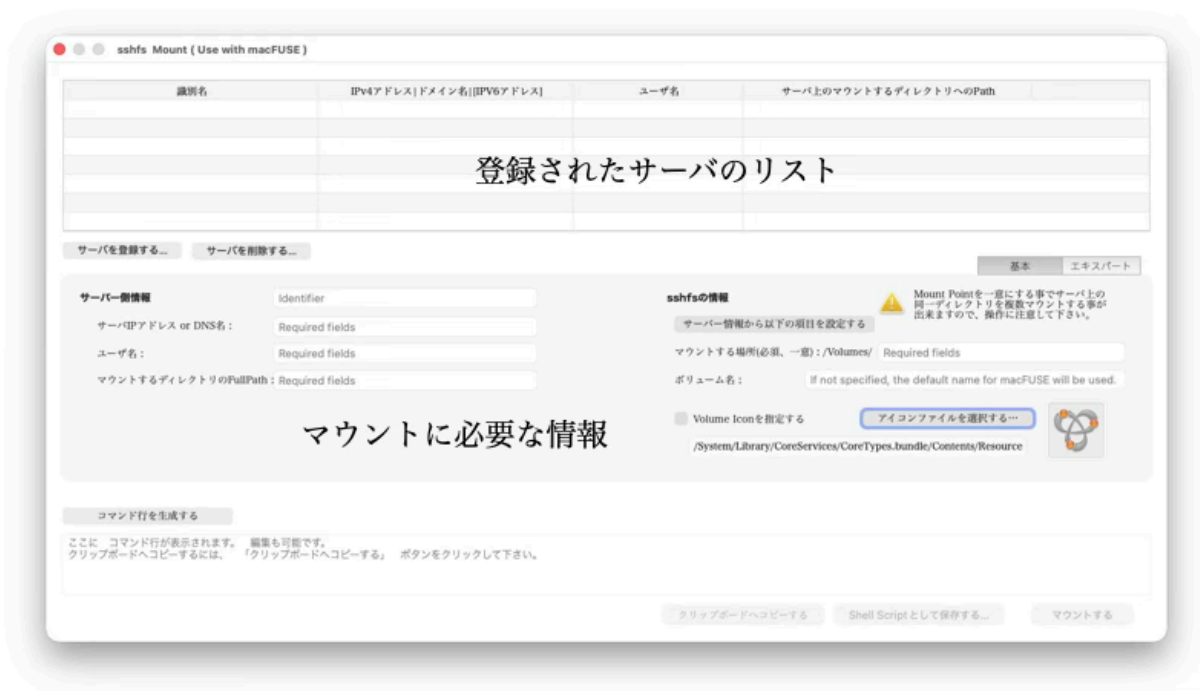
LicenseInfo.xmlはテキストファイルですが、テキストエディタなどで編集しないで下さい。

署名を検証する際にLicenseInfo.xmlが改変されたと判断すると
ライセンスが無効になります。

ライセンスが無効な状態でもコマンド行の生成機能は使用出来ます。

3. 機能説明

アプリケーションが起動すると以下のメインウィンドウが表示されます。



ボタンの機能

「サーバを登録する」

サーバの情報に入力された情報を元にリストに登録します。

「サーバを削除する」

リスト上で選択されたサーバを削除します。

コマンド行を生成する

サーバ側情報とsshfsの情報が設定されていれば、コマンド行を生成します。

コマンド行を編集するには、コマンド行内をクリックします。

クリップボードへコピーする

生成された（表示されている）コマンド行全体をクリップボードへコピーします。

Shell Scriptとして保存する...

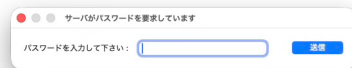
コマンド行全体をファイルとして保存して、実行許可ビットを有効にします。

Finder上から右クリックで「ターミナルで起動」すれば、他のソフトが必要無いスクリプトファイルになります。

マウントする

コマンド行をShellへ渡して、その場でマウントします。
サーバ側とクライアント側に鍵を設定してあれば、One-Clickでマウント出来ます。

サーバ側からパスワードを要求されるとダイアログでパスワードを入力するように促されますので、対応したパスワードを入力して下さい。



注意：

タイムアウト,パスワードエラー等を考慮していないので、
マウント操作に失敗する場合があります。

可能であれば、パスワードを入力する事なく試用出来る
より安全な鍵による認証をお使い下さい

サーバ側情報とsshfsの情報を設定し、「コマンド行を生成する」をクリックすると
ウィンドウ下部のフィールドにコマンド行が生成されます。

良く使うサーバは「サーバに登録する…」でウィンドウ上部のリストに登録する事が出来ます。
リストから削除するには、項目をクリックして選択し、「サーバを削除する…」で行います。

サーバ側情報

識別名 (identifier) は識別のためのものです。アプリケーション内で利用していません。

サーバIPアドレス or DNS名は接続先のサーバの名前又はアドレスです。

IPv6アドレスを指定する場合は角括弧で囲んで下さい。

マウントするディレクトリのFullPathはサーバ側にあるディレクトリ名です。

sshfsの情報

サーバ側情報を元にsshfsの情報を設定するには「サーバ情報から以下の項目を設定する」をクリックします。(通常はこれで充分実用的です)

マウントする場所はmacOSでは/Volumesディレクトリを使います。

判りやすい適切な名前を設定して下さい。

ボリューム名はマウントされるディレクトリのMac側での名称です。

これもサーバとアカウントが判りやすい名前を設定して下さい。

【補足】 sshfsデフォルトのボリューム名はサーバやアカウントが明確では無いので、
指定する事を推奨します。



Volume Iconを設定するには、チェックボックスをクリックして、アイコンファイルを選択します。

これを選択しないデフォルト状態では、ファイル共有で使用するアイコンが使われます。

sshfsMountのアプリケーションバンドル内Resourcesフォルダにボリュームアイコンがありますので、気に入って頂ければご利用下さい。



エキスパート

Default Permissionを使う ☒ 通信の際に圧縮する ☐
他のユーザにもアクセスを許可する ☐ 自動再接続 ☐
シンボリックリンクを有効にする ☐ ssh接続にこのポート番号を使う: 22
Config Fileを選択する...
/Users/Hirokazu/.ssh/config
コマンド行の先頭にエイリアスを追加する
Please enter an alias name here.
コピー後にターミナルを起動する ☐ /Applications/Utilities/ITerm

Default Permissionを使う

Default Permissionを使うには、このチェックボックスをオンにします。
sshfsはこのオプションを指定しない場合はサーバ上のパーミッションを無視します。

他のユーザにもアクセスを許可する

他のユーザにもアクセスを許可するには、
このチェックボックスをオンにします。
ここでの「他のユーザ」とは、クライアントマシンに接続しているユーザが対象です。
前述したようにデフォルトではサーバ上のパーミッションが無視されているので、
これをオンにした場合は前項のチェックボックスも併せてオンにしてください。

シンボリックリンクを有効にする

シンボリックリンクを有効にするには、このチェックボックスをオンにしてください。
デフォルトではサーバ上のシンボリックリンクを解決しません。

コンフィグファイルを指定する

Config Fileを選択する...

ssh接続の際に別のSSH設定を使用したい場合はこのオプションで設定ファイルを指定します。

通信の際に圧縮する

サーバとの通信データを圧縮するには、このチェックボックスをオンにしてください。
速い回線（Ethernetとか）だと効果は感じられませんが、遅い回線の場合に
有益かと思われます。

自動再接続

遅い回線、ノイズのある回線などで接続が途切れる場合に、自動で再接続するにはこのチェックボックスをオンにしてください。

ssh接続にこのポート番号を使う： 22

サーバが標準ポートで接続を受け入れない場合はこのオプションでポート番号を指定します。

コマンド行の先頭にエイリアスを追加する

Please enter an alias name here.

コマンド行をエイリアス定義にするにはこのチェックボックスをオンにして、テキストフィールドでコマンド名を指定します。

コマンド行の先頭に「Alias 指定したコマンド名 = 」を挿入します。

コピー後にターミナルを起動する

/Applications/Utilities/ITerm



ターミナルをコピー実行後に起動するには、このチェックボックスをオンにします。ターミナルが自動起動するため、ターミナルを起動する手間無く作業を継続出来ます。起動するターミナルソフトをポップアップで指定出来ます。このオプションはコマンド行に影響を与えません。

ポップアップに表示されるターミナルアプリはアプリケーションフォルダの配下にある作者が知っているターミナルを探索するようにしています。

検索するターミナルは：

- macOS標準付属のターミナル
- iTerm2
- Warp
- WezTerm
- Ghostty
- Hyper
- kitty
- Alacritty

想定される使用方法

- ・サーバマシン等を日常的に管理運用されている方がUNIXの設定ファイルをリモート側では無く、ローカルの普段使っているエディタなどで編集したい
- ・複数のサーバマシンなどに設定ファイルを配布したい
- ・複数サーバの管理の為、ssh接続情報とsshfsの情報を一括で管理したい

sshの特性上、小さいファイルが大量に有るとパフォーマンスが極端に落ちます。
その様な作業形態の場合には、サーバ側にSamba等のサービス運用をご検討下さい。

sshfsの機能や特性を理解せずに使用すると、サーバ側のファイルに回復不可能な障害が発生する事があります。

どの様に設定するのが最も安全かを良く考えてご利用下さい。

○ライセンス情報について

sshMountと共に配布しております「ライセンス情報」と「署名」(LicenseInfo.xml,Sign)ファイルは試用期間として月末が指定されています。

ライセンスが無効であっても、コマンド行の生成、編集、コピーは制限なくご利用頂けます。

作者は適切な注意をはらって開発を行っておりますが、本ソフトウェアが瑕疵無く動作する事や利用者の目的に適合する事など、一切の保証を致しません。 また、本ソフトウェアを利用した事によって生じる損害などや、利用する事が出来なかった事による損害など、に関して一切の責任を負いません。 ご自身の判断の元、本ソフトウェアを利用する、もしくは利用しない事とします。

本ソフトウェアの不具合の修正、将来のバージョンアップ等の保証も一切致しません。

現状、あるがままの状態を提供されるものとし、そのままお使い頂く事とします。

開発者は著作権を留保します。

本ソフトウェアの開発者、配布者およびそれらの従業員、関係者は本ソフトウェアに関する責任を一切負いません。

ソースコードについて

本ソフトウェアはXojoの提供する基本機能と独自開発モジュールを使って構築いたしました。

開発者の判断によって、本ソースコードの一部を公開する事があります。その場合でも、他社が権利を持つソースコードは公開されません。 ここで言う権利とは、著作権を持つ者や、契約により著作権の譲渡を受けた者等を指し示しますがそれだけに限定いたしません。

本書執筆時点でいくつかのモジュールが他社の権利下にありますので、全ソースコードの公開は出来ません。

作者への連絡先：

authors.kiddish2t@icloud.com

ライセンスの購入方法： ベクターシェアレジでの購入
メールアドレス必須